



こんにちは!

気象庁です!

8月号

平成22年
(2010年)



9月の気象

～秋雨前線～

9月中旬ごろになると、それまで夏の暑さをもたらした太平洋高気圧が次第に弱まり、太平洋高気圧の温かく湿った空気と、大陸の冷たく乾燥した空気が日本付近でぶつかるようになります。このため、2つの性質の違う空気の間には秋雨前線が発生してぐずついた天気が続くようになります。

図1は東京、福岡における日降水量10mm以上の月間日数の平年値です。日降水量10mmとは、大きな水たまりができるようなまとまった雨です。6月から7月の梅雨の時期には福岡の方が日数が多いのに対し、9月から10月の秋雨の時期には東京の方が多くなっています。このほかの東日本・西日本の地点でも秋雨の時期には概ね同じような傾向が見られ、西日本よりも東日本で雨が降りやすいと言えます。

また、9月は台風が日本を襲うことがしばしばあります。台風が日本に直接上陸しなくても、南海上の台風から湿った空気が流れ込んで秋雨前線が活発になり、大雨となることもあります。9月は気象庁が発表する大雨や台風などの防災情報に特に注意が必要です。

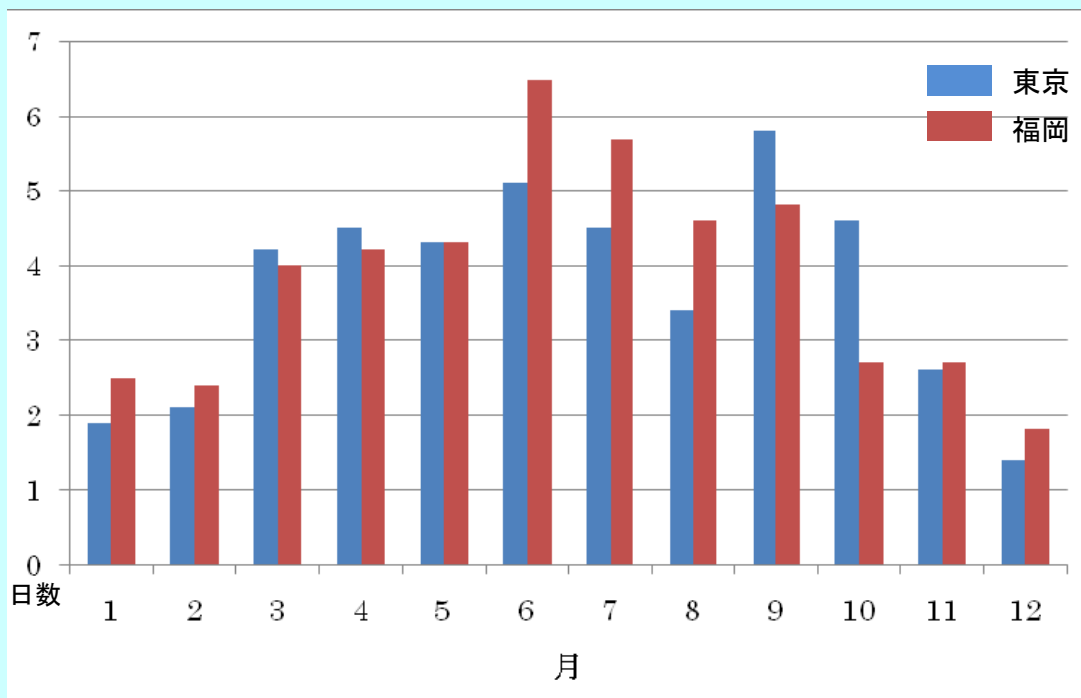


図 東京、福岡における日降水量10mm以上の月間日数平年値